

# 論壇

## 途上国は資金流出を警戒

米国の中央銀行による政策金利引き上げが、グローバル経済に不安感を引き起こしている。来年はさらに何度かの小刻みな金利引き上げが続くことになるだろう。主要国の中でもっとも速いスピードでの景気回復を続けている米国では、金利は上昇基調にあるのだ。問題は、そうした動きが途上国からの資金流出を起すのではないかという不安感を煽っていることだ。途上国の中には資金流出を防ぐために自国の金利を上げると

伊藤 元重

東大教授(国際経済学)

## 米金利引き上げと世界経済

「不動産」(途上国の不動産市場は大きな値上がりをした)、「石油などの資源」(途上国の成長が資源価格を引き上げた)の三つに流れた。こうした流れはリーマン・ショックを境に大きく逆転を始めている。グローバルマネーは、エマーシング・不動産・資源から

動きを警戒している。

リーマン・ショック前には、巨額の資金が途上国や新興国に流れ、それが世界経済を拡大させてきた。BRICsという言葉が世界中に広がった。資金は、「エマーシング」(途上国という意味)、

「不動産」(途上国の不動産市場は大きな値上がりをした)、「石油などの資源」(途上国の成長が資源価格を引き上げた)の三つに流れた。こうした流れはリーマン・ショックを境に大きく逆転を始めている。グローバルマネーは、エマーシング・不動産・資源から

リスクオフの動きが世界的な株価の下落を引き起こしている。

そうした最中の米国の金利引き上げだ。途上国や新興国が警戒するのは当然だろう。途上国からの資金逃避は、1990年代末のアジア通貨危機や、1980年代前半のブラジルやメキシコの債務危機を思い起こさせるものである。大規模な通貨危機は頻繁に起きるものではないが、グローバルマネーの動きが途上国経済にとってアゲンストとなっていることは確かだ。

次の有利な投資先を模索  
ただ、今の状況をあまりに悲観的にとらえるのも問題だ。米国の

金利引き上げの影響も、少し時間がたてば落ち着くという見方もある。グローバルマネーも、いつまでも途上国や新興国から逃げるだけではなく、次の有利な投資先を模索しているはずだ。すべての途上国や新興国の経済状況が悪いわけでもない。

年の終盤になって、グローバルマネーの市場は大きく揺れている。欧州のテロや石油価格の暴落による資源国の苦境など、いろいろなことが起きた一年であった。来年はどうなるのだろうか。世界経済の動きは一瞬先に何が起るか分からないと言われるが、来年はもう少し平穏な年であってほしいと願っている。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。